

ティーチング・ポートフォリオ

健康科学大学 看護学部 看護学科

教授 坂本 文子

1. 教育の責任

1) 大学内における教育活動

私は、2021年度より看護学部看護学科基礎看護学の教員として、看護学科1・2年生の専門科目を中心に担当している。主要な担当科目は、看護学概論、看護援助方法論であり、看護学の基盤となる理論や概念、各看護領域に共通する基本的看護技術の講義・演習・実習である。各授業のシラバスは、健康科学大学のホームページで公開されている。

2022年度

科目名	時期	
看護援助方法論Ⅰ	1年前期	必修
看護援助方法論Ⅱ	1年後期	必修
看護援助方法論	2年前期	必修
基礎看護学実習Ⅱ	2年前期	必修
看護研究Ⅱ	4年通年	必修
看護総合実習		

2023年度

科目名	時期	
看護学概論	1年前期	必修
看護援助方法論Ⅰ	1年前期	必修
看護援助方法論Ⅱ	1年後期	必修
看護援助方法論Ⅲ	2年前期	必修
看護援助方法論Ⅳ	2年前期	必修
基礎看護学実習Ⅱ	2年前期	必修
看護理論	2年後期	必修
看護研究Ⅱ	4年通年	必修
看護総合実習	4年	必修
看護教育論	4年後期	選択

2) 学外における教育活動

本学での授業の他には、主に、日本手術看護学会指名理事として活動をしている。

日本手術看護学会は、我が国における手術室看護師の質向上を目的としており、私は、教育統括委員会、編集委員会、研究倫理委員会、認定制度委員会に属し、教育プログラムの構築や研究活動支援を行っている。学会全体としては、日本の手術医療におけるチーム医療の在り方や働き方改革、看護技術を診療報酬に繋げるための看護のエビデンスの探求などにも取り組んでおり、指名理事として学会運営に参画することで、教科書では得られない生き

た授業に繋げることができている。

2. 教育の理念・目的

どのような学生を育てたいか

1) 看護は、患者さんにとっての最善を探求するものである。患者さんにとっての最善は、患者さんの心と身体を健康を守るための最善の行為の探求であり、そのためには、『人に対するやさしさと思いやり』と患者を安全を守るための『科学的根拠・理論的根拠に基づいて看護を判断・実践できる』看護者を育てたい。

2) 本学はこれまでほぼ全入であり、学習習慣がほとんどない学生も多く、学習力の差が大きい。新聞購読や読書の習慣もない学生も多く、試験問題の設問を間違えて解釈するなど、文脈を正しく捉える力が養われていない。到達度を均一にするのは難しいが最低限、コミュニケーションの基盤となる『読みとる力、考える力、伝える力』、論理的思考の基盤となる『自己の課題（自己の問題と今後の取り組み）を明確化する力』のある学生を育てたい。

3. 教育の方法

1) 『読みとる力、考える力、伝える力』、『人に対するやさしさと思いやり』

主に、看護学概論や看護理論の授業において、ナイチンゲールやヘンダーソンの著書を読み解き、看護とは何か、読み取った内容を記述する。その後グループワーク討議と全体発表を行っている。自分の考えを他者に伝え、他者の考えを聞く、その過程で、他者との考え方を知る。討議・発表する過程で、『読みとる力、考える力、伝える力』、他者との価値観の違いへの気づきや相手を尊重することを学ぶ機会となり『人に対するやさしさと思いやり』が養われると考える。

2) 『科学的根拠・理論的根拠に基づいて看護を判断・実践できる』

主に看護援助論において、事前学習として、看護技術の手順の作成を課し、それぞれの行為の根拠を考え記載するよう指導している。根拠の記載には、解剖生理・疾病治療論・薬理学などの知識が必要であり、学修の積み上げを実感し、学修の動機づけとなるよう工夫している。

3) 『自己の課題（自己の問題と今後の取り組み）を明確化する力』

技術演習の振り返りとして、「できたこと、できなかったこと、その理由、今後の取り組み」のレポートを課し、理由や今後の取り組みに記述不足のある学生には再提出を求めている。知識の確認は、技術演習の根拠となる知識や援助技術のポイントを記述式や穴埋めで回答するレポートを課し、学修到達度を学生・教員相互に確認する方法をとっている。成績低迷者は、個別に面接を行い、学習方法の確認を行っている。

4. 教育の成果・評価

1) 令和4年後期の看護援助方法論Ⅱの学生による授業評価アンケートでは、「担当教員は、

授業に際し、十分な準備を行い、意欲的に授業を進めていたか (4.34) 全体平均 (4.35)、
「この授業は定刻通りに実施されていたか全体平均 (4.35)、2項目が平均より低かった。
自由記載がなく学生の理由は不明だが、技術演習は授業前の着替えや準備を課していたこ
とも理由と推察される。授業時間内に次回の準備まで行う」など、授業時間外の準備や片付
けなど学生の負担とならないよう調整する。他の13項目は全体平均以上であった。

・全体平均と最も差が大きかった項目は、「課題 (レポート・小テスト等) に対して、担当
教員からのフィードバックはあったか (4.34)」、「全体平均 (4.22) 「この授業を受けるにあ
たり、授業時間以外での学習にどのくらいとり組んだか (4.34)」、「全体平均 (4.22)」の2項
目であった。レポートや定期試験は、学生の学習成果であり、到達度の確認と復習に活用で
きるよう今後もフィードバックを行っていく。

2) 令和5年度前期の看護学概論で著書の読み解きとグループワークによる討議・全体発
表をおこなった。学びと課題のレポートでは、「意見交換し、視野を広げることの楽しさを
重要性を発見できた」「人見知りが多いが、最初は緊張したが、自分の意見を相手に伝え
たり、相手の意見を理解しなにしていくうちに自然に打ち解けていき、今ではグループワ
ークが大好きになった」「会話を学んでいきたい」など、学びの成果が記述されていた。

5. 今後の目標

短期目標：

1. 十分な準備を行い、意欲的に授業を進める。
2. 授業を定刻通りに実施する。

・2023年度前期は、担当科目数が多く、初めて担当する授業内容が多く、授業資料がわか
りにくい、見にくい、学生への連絡が遅いなど、準備不足があった。2022年度の技術演習
は、教員数が少なく、個人指導に時間を要し、時間を延長する、個人指導の不足があったた
め、2023年度は領域内の教員全員参加、他領域の教員の協力を得て、学生個々の指導を行
うようにしており、学生の到達度と満足度も高くなっている。委員会など業務の効率化を図
り、授業準備を計画的に行い、わかりやすい準備とタイムリーな学生への連絡を行う。

長期目標：

『人に対するやさしさと思いやり』と患者を安全に守るための『科学的根拠・理論的根拠に
基づいて看護を判断・実践できる』看護者を育成する

(2023.8.29 作成)